



「明日枯れる花にも水をやる」

花は、その色美しさやかぐわしさで人の心を和ませてくれます。その恩返しに、花の命尽きるその時まで慈しむ。「明日枯れる花にも水をやる」は、そんな優しさの込められた言葉です。

昨日、全校生でプール清掃をしました。46年前、「香川県初のステンレスプール」として誕生したプールの最後の清掃でした。プール内だけではなく、1、2年生はプール周りの草抜きをしたり、3年生は更衣室の掃除をしたり、4年生がプールサイドの溝をきれいにしたりしました。千人を超える子どもたちの夏の思い出を彩ったプールへの恩返しです。



【きっとプールも喜ぶはず】

## 香川県初のステンレスプール 最後の水しぶきを散らす

このプールの誕生は、当時の新聞にも取り上げられました。片田舎の学校に県で一番のものがある。それは、私たちの自慢でした。

夏の水泳特別練習の後は、給食室で温かいあめ湯を飲ませてくれました。夏休みには自治会ごとにプールが開放され、子どもたちの歓声と水しぶきが太陽の光に跳ねていました。

しかし、近年は壁や床の塗装がはげて痛々しく修復された跡が残り、トイレは故障のため、毎年プールの時期は仮設トイレが設置されています。夏休みのプール開放も中止となり、子どもたちの声が響く機会もめっきりと減りました。

それでも昨日、全校生が掃除し、生まれ変わったように青い光を反射するプールは、最後の晴れ姿を見てくれているかのようでした。

私たちはよく、旧友と過去を懐かしんで話をします。

「昔の電車（汽車）は、手でドアを開けて乗り降りしていたよね。」

「ダブルデッキのカセットテープで、ダビングしていたよね。」

「家族に内緒の電話をする時には、10円玉を持って家を出て、公衆電話で電話をかけたよね。」

いつか小学校時代を振り返る時があったなら、「本山小学校の、このプールで泳いだよね。」と語り合える最後の連れが、今年の1年生から6年生なのです。

昨日、プールに水を入れ始めました。  
「明日枯れる花にも」……いや、まだプールは枯れません。  
「途中、水を飲んでしまったけど、頑張って25メートル初めて泳ぎ切った。」「水泳大会は緊張したけど、力を出せた。  
先生は見てくれていたかな？」  
6月4日、プール開き。この46年間、何度も繰り返されてきた小さなドラマの最終回が始まります。



【ウユニ塩湖？ 父母ヶ浜？】